

桐鈴凜々

第84号
平成24年7月15日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp
/~tourei/

おお！ “終のすみか” を目指す

ケアハウス鈴懸はこんなところだ！

ケアハウス鈴懸施設長 林 幸英



今の自分をたどるならば、
幼児（おさなご）老人というところでしょうか。そんな私がよ
ちよち歩きを始めて六ヶ月が
過ぎてしまいました。

いまだ首も据わらず、はいはい
いしても後ずさりしていた私が
感じているのですから間違いあ
りません。鈴懸はほんとにいい
ところですよ。

今現在、入居の申し込みをさ
れている方（待機者と言っても
よいでしょう）が六〇人を超え
ています。定員は三〇人ですが、

一年間に新たに入居できる方は
二〜三人というところでしょう
か。入居されている方が本当に
長生きされています。

建物が一つの社会であり、そ
の中で規則正しい生活をされて
いるからなのでしょう。平均
年齢が八五歳を超えています。
このことから分かるように、
空き部屋は入居者が亡くならな
いといけないということです。

入居者が亡くなる日は予告無
しにやってくる。そして部屋
が空いたからといって、すぐに

入れる待機者もまた少ないのが
事実でもあります。

施設をいつまでも空き部屋に
しておく訳にもいきません。し
たがってすぐに入居できる人を
優先せざるを得なくなるのです。
結果として、三段跳び、四段跳
びで入居できてしまうことも出
てくる訳です。言ってしまうは、
宝くじの要素も潜んでいるよう
です。明日にもあなたが当選す
るかも……。

一日三度の食事は、全員が食
堂で食べていただくことを基本
としています。一食二六〇円で
食べていただいています。この
食事もほんとおいしいです。

献立は栄養士によって立てられ、
一〇日分の献立表が三日前に入
居者に配られます。高齢者も多
くなっていますから、刻み食、
ミキサー食、普通のご飯、硬め
ご飯、おかゆなど入居者に合っ
た食事を提供しています。その
ほか、一ヶ月の中に旬の食材を
使った料理と、麺、どんぶり、
弁当のセレクトメニューなど
多彩性を持たせ、一般家庭と同
じように、変化を持たせた食事

が楽しめるよう工夫して提供し
ています。

食堂は、六テーブルに五人ず
つの配置になっていて、三ヶ月
サイクルで席替えを行っています。
共同社会ですので片寄った
交流にならないように、またお
互い同士の睦み合いに意を用い
ています。このことも、お互い
に末長く生活していただくため
を思う、入居者からの要望が実
現したもので、本当にありがたい
ことです。何よりも入居者の
皆さんが楽しく、また、おし
く食べられる食堂であってほし
いと願っています。



施設にとって何よりも大切
なものは“人”です。これが職
員であり、入居者にとっても施
設にとっても必要な人“財”と
して貢献してほしいと、大いに
期待しています。

終のすみかを目指す鈴懸の職
員のあり方を考えてみるに、イ
メージとして、福祉ボランティア
的な考え方を土台にして働け
る職員が望ましいかな……。とい
うのは、年をとると、身体的、
精神的な障害で、自分が意のま



「屋台デー」で熱唱する施設長

まに動けなくなり、他人に頼る以外になくなります。このことを今までの捉え方でいうと、自分勝手、わがままだということになっていました。今は措置から契約へと考え方が一八〇度転換してきています。

いわゆる、高齢者や障がいを持った人の人権や尊厳を優先する考え方に変わってきているのです。今はそういう時代であるという認識を持ち、職員一人ひとりが意識改革をしていくことが重要となってきます。

とはいえ、言うは易いが成り難いです。お互いに精進していく覚悟ありやです。人間が堅い

ので、ついこんな話になってしまいました。ご勘弁です。

鈴懸は、年間の四季折々にイベントを開催し、主催する職員も入居者も一体となって楽しむことができず。これが絶好のふれあいと交流の場を提供してくれています。先人達が企画し、これが継続されていることに感謝です。春は桜見物、夏は夏祭り、秋は紅葉見物、冬は屋台デーと盛りだくさんで、それぞれ趣向を凝らしての出し物は料理であれ、演芸であれ、見応えがあります。そのほか毎月々にお茶会、マージャン、カラオケ、革細工なども取り入れています。これも地域のボランティアや役員のご協力、ご支援等のお力添えがあったればこそで、嬉しい限りです。これからも末長いお付き合いをお願いするものです。

鈴懸の一番の自慢は、五階に設置されている展望風呂です。男女別々で、午前一〇時から午後七時四五分まではいつでも入浴する事が出来ます。

「鈴懸で末永く生活していただくためのサポートサービス（通称5S）」を始めました

ケアハウス鈴懸も13年目となり、要介護者も増え、介護保険のサービスだけでは充足できず、だんだんとケアハウスの職員が入居者の介護にかかる時間も増えてきました。職員体制も当初の2倍に増やして対応してきましたが、「終のすみか」の実現の難しさも感じています。また、介護が必要のない入居者からは、「私も介護が必要になった時にはああしてもらえて嬉しい」という意見の反面、「あの人がばかりに手がかかり、私は何もしてもらっていない」という意見も聞かれることがありました。

そこで、介護が必要な方からは少しご負担をいただいて、「終のすみか」を目指していこうということになり、6月よりスタートしました。今までの特別サービスと合わせて「鈴懸（S）で末永く（S）生活（S）していただくためのサポート（S）サービス（S）」通称「5S」と格好よく名づけましたがなかなかネーミングが定着しません。事業名のとおり、皆さんに鈴懸で末長く生活していただきたいと思っています。

「5S」の主な項目は介護サービス（食堂への送迎、排泄介助など）・送迎サービス・通院、入退院時のサービス（送迎、付き添いなど）・生活上のサービス（服薬管理、食事の配膳など）・駐車場使用料・その他です。

（生活相談員 小林裕子）

ここからの魚沼三山の眺望は、ワンダフル！です。なんと、スイスの山並みに似ていると言われるくらい素晴らしい眺めです。こんな絶好の環境の中に位置する鈴懸です。いつまでも末長く地域福祉のために役立つ施設であることを願ってやみません。これまでに鈴懸の発展に関わってこられた多くの関係者の方々に心から感謝申し上げます。

お知らせ

障がい者の日中活動の場「工房とんとん」について、新潟県から七月二日に内示がおりました。九月中に入札をして業者が決まるでしょう。来年四月一日がオープンです。喫茶店の名前がなかなか決まらないうです。



吉澤さんと共に



鈴懸おはようヘルプ
サービス提供責任者

森山 栄子

吉澤さんはケアハウス鈴懸の開設と同時に入居され、一三年目の平成二四年五月二九日、九〇歳で旅立って行かれました。

翌日の三〇日、夢草堂でお別れ会を行い、娘さんご夫妻をはじめご親戚の方、入居者、職員が大勢参列し、一三年間を共にした仲間や職員に見送られ安心されたお顔で旦那様の傍へ行かれました。

吉澤さんと最初に会ったのは私が入社した平成一四年の四月でした。あれから一〇年。入居者の中で一緒に過ごした時間が一番長かったのが吉澤さんだったように思います。(介護が必要になり一人では過ごせない時間が増えた事などがあり)語りきれないほど色々な思い出が甦りお別れ会での弔辞は感極まり涙が溢れて来てしまいました。



「大好きなねーちゃん(娘)と一緒に花見に行ったんだて〜」

私の名前が呼びやすかったのか、なんとなく同じ匂いを感じていたのか、いつも「栄子さんいたー？」と事務所に居る私を訪ねてくれました。〇型同士、おおらか、おっとり、おしとやか？？とっておきましよう。吉澤さんとはなんとなく同じ合うものがあるなと感じたことがあります。吉澤さんは私のこと、どう思っていたんでしょうね？周りの職員から上手に名前を使われ、「栄子さんが来るからもうちょっと待っててね」とか「栄子さんが待ってるから行ってみよう」など「栄子さんが：」と言う言葉をよく使ってもらったお蔭で最後まで私の事はなんとなくわかっていまして、本当にうれしく思っています。

吉澤さんが体調を崩し、一人で部屋にいられなかった幾年間(※注)は殆ど一緒に過ごしたように思います。朝出勤してくると(私がヘルパーに異動する前)すでに車椅子で事務所に来られていて、朝礼に参加し、一日が始まりました。ハンコつき、メモ帳作り、野菜の皮むきなどなど。行事があるときは二人で看板作りましましたよね。また吉澤さんがじっとしていられない時は、隣の公園に散歩に行ったり、ヤミーにアイスクリームを食べに行ったりもしましたね。あの時は吉澤さんのおかげで仕事中にアイスを食べられ至福のひとつでした。吉澤さんと一緒に過ごし癒されたことも多々ありました。

私が宿直をしていた時のことです。体調の悪い時はなかなか眠れず車椅子で一緒に見回りを行ったことや、ないものが見えるような状態になった時、いつもは車椅子生活で歩けないはずなのに、杖を振り回し追っかけられたこともありました。病気による色々な症状が現れ辛い毎を送られてきたことと思

ます。ターミナルに入り自分で食えることが出来なくなってきたら毎日のように娘さんが食事介助に来て下さいました。その時はとても穏やかで幸せそうなお顔をされていました。そして最後は娘さんに見守られて穏やかに眠るように逝かれました。吉澤さんの介護にはだいぶ悪戦苦闘もしましたが良い経験をさせてもらいました。誰からも好かれる優しい性格だった吉澤さん。職員皆で精一杯関わられ、鈴懸で看取りができたことは本当によかったです。どうぞ安らかに眠りください。ご冥福をお祈りいたします。

(※編集注)

ある時、行方不明になって上越線の線路で見つかった。以後、吉澤さんの部屋にマットコイル(センサー)を置くことにした。



ちづ子の部屋

「カカア天下」の
井口ヒデノさん



ヒデノ
さんは八
八歳には
見えない
若々しい
方。お部
屋に入る

なり、制作物を見せてくださった。手編みのセーターやチョッキ。秋に行われる街の文化祭では、ヒデノさんの作品がたくさん飾られる。

「いつごろから作っていたの？」

ヒ「子どもが小さい時に、子どものものはみんな作っていたからね」

「洋服も？」
ヒ「洋服は作らない。編み物だけ。それから持って歩くかごとか」

子どもは四人。父ちゃんは国鉄マン。だから引越しはたびたびで、鈴懸に来たのが一二回

目の引越し。浦佐小学校で一級上だったのが、父ちゃん。

「じゃあおさななじみで付き合っていたわけね。どっちが付き合おうって言い出したの？」

ヒ「私じゃない。父ちゃんの父親が私の働く姿を見て、嫁にこいと言ってくれて付き合いはじめたってえだ」

「父ちゃんになる人のことをどう思っていたの？」

ヒ「背が低い人だと思っていただけ」

「どんなところに転動になっていたの？」

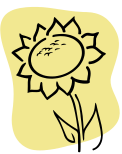
ヒ「相模原が一番長かったな。二〇年もいたからね。そこには、弟がいたから住んでいたんだけど、父ちゃんは新橋の駅までそこから通っていた。帰ってこない日も多かったな」

「まあ！ ずいぶん遠いではないか？」

多分ここらあたりが「カカア天下」の証明になるのでは？ 本人もそれを十分に認めていた。ヒ「スキー場ができて、民宿を始めたなら、父ちゃんは定年前一〇年もあるというのにやめて民宿を手伝うことになった。料理

は私が全部作った。布団の上げ下ろしなんかをやってもらった。一七年ぐらいして、新幹線ができたなら、客が減ってしまったんでやめてしまった」

大正一三年、浦佐新町のしやがん(左官)新宅に生まれた。浦佐田町のさへいじドン(ここらでは、屋号に「ドン」がつくと「いいうち」ということになっている)に嫁に行って、そのうちには一三人もいたから、とつてもかなわなくて父ちゃんと八か月でその家を出た。それから女の子を二人、男の子を二人産んだ。一〇年ぐらい前に父ちゃんが亡くなって、結婚しないでいる次男と暮らしていたけど、鈴懸に入居したから次男が一人暮らしになった。その次男が、七月五日心筋梗塞で、長岡の立川病院に救急車で入院した。この近くに住んでいる二人の娘が呼びに来るのを玄関で待っているヒデノさんに最後のインタビュウをして聞かせていただいた。次男さんが無事治りますように、と祈りつつ。



平成二三年度、鈴懸でこんな苦情がありました。

(苦情の申し出人)

・施設の敷地内で商売用の盆栽を管理していた入居者(A)

(苦情の内容)

・入居者(A)が管理していた盆栽に、ある入居者(B)が除草剤をかけて、故意に枯らしたというもの。この事実をそのまま放置してはならないし、入居者(B)が二度とこのような行為に及ばないよう、施設側から文章にして本人(入居者B)に渡して説明してほしい、という内容です。

(解決方法等)

・苦情解決第三者委員会を開催し、次のような方法をとった。
一、商売用の盆栽を施設から撤去してもらったこと。
一、除草剤の件については証拠不十分としたこと。(この対応について、苦情を申し出た本人は、納得がいかず異議があると述べていた)

永井秀和の歌とピアノ

ファミリーミニコンサート



鈴懸生活相談員 小林裕子

夢草堂で素敵なファミリーミニコンサートが行われました。歌とピアノを聞かせてくれた高校生の永井秀和（しゅうわ）さんは鈴懸入居者阿部房江さんのお兄さんのお孫さんです。阿部さんも秀和さんの伴奏で高音が魅力の歌声を聞かせてくれました。夢草堂のピアノは阿部さんが寄贈してくださったもので、秀和さんが初めてふれたピアノがまさにこのピアノ（写真）だそうです。

阿部さんが大好きな音楽の道を目指した秀和さんのことを応援している話を聞いていたので、思い出のピアノで、阿部さんの歌声が聞けるコンサートを楽しみにしていました。

初めての、セッションで練習もほとんど



秀和さんのピアノで歌う阿部房江さん

準備を進めていた「永井秀和の歌とピアノ、ファミリーミニコンサート」は、七八歳を迎える叔母の歌う姿や、息子の荒城の月と一緒に歌う会場の声、皆さんの温かい励まし

どできずに本番を迎えたなかで、年の差六〇歳のファミリーの伴奏と歌声は会場を和ませてくれました。秀和さんの即興曲には皆さん驚かされました。その場で考えながら弾いて、一曲になるということにもびっくりでした。また、はずかしがり屋なのか、「物静かな男子高校生」といった印象だった秀和さんからは想像できない太くて低い歌声も心に響くものでした。

永井裕佳里さんより

（秀和さん母）

晴天に恵まれた五月五日、会場いっぱいのお客様に見守られる中、遅咲きの桜を期待しながら

の声により、家族の宝物となりました。幼少時より、芸術面で阿部房江の影響を受けた姪の私の思いを叶えるかのように、私



秀和さん1歳。すでに大器の片鱗が。

の息子が叔母の歌の伴奏をする演奏会を叶えてくださり、心より感謝しています。

進行の難しさも味わいました。早口のコメント、アンコール曲の準備がなくて慌てたこと、アンコールの最後に会場の皆さんと一緒に歌えたら楽しめたのにと、反省点は山積みです。理事長さんに助けていただきました。それでも、涙を拭いてくださる方の姿を思い出したり、少し体調を崩していた叔母の、練習時に出ていた声が一番で発揮できなかった心残りの気持ちですが、また次に繋げていく力となりました。

秀和は幼い頃から、その場で生まれる譜面のない自由な即興曲を奏でながら、歌うのが大好きでした。クラシックピアノの演奏中も譜面を見ませんが、今回初めて挑戦した童謡や懐メロでは譜面と格闘していました。この体験が、音楽の幅を広げていくことと思います。

これからますます学び成長していく過程にいる息子と私達親もまた、皆様の励ましにより、受験という大きな壁の前に固くなっていた心を柔軟にするとともに、大きな力を頂きました。

コンサート後まもなく、初めて挑戦した「東京国際芸術協会TIAA全日本作曲家コンクール」で「描写のPART」The Part of Depiction」が第二位（一位該当なし）を受賞したとの通知が届きました。九月には披露演奏会が行われます。受験後、秀和の成長した姿でまた皆様にお会いできる日を楽しみにしています。

最後に、忙しい中、快く準備を引き受けてくださり、皆様には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

家庭教育支援チーム 「だんぼの部屋」活動について

桐鈴会理事
夢草堂運営委員長
鈴木智子

私は、夢草堂運営委員会の委員長として、講演会、展覧会、コンサートと毎回バタバタとしながらも、楽しい思いをさせてもらっています。

いつもは、浦佐小学校と六日町小学校で、家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」で支援サポーターをしています。今回はこの「だんぼの部屋」を紹介させていただきます。

「だんぼの部屋」は、平成二〇年に文科省の家庭教育支援モデルに指定され活動を始めた。二年で、かの「仕

分け」の対象になり、予算の道が断たれましたが、学校の理解と協力により、なんとか存続。現在は「南魚沼市子ども・若者支援センター」の支援を受け、『学校の中にある教室でも職員

室でもない部屋』を目指し活動しています。

子ども、保護者、地域の方々等、誰でも立ち寄りお茶を飲んでお喋りする場所です。皆さんのお喋り、つぶやきが活動のヒントで、イケメン高校生による料理教室、手作りシチュチュ教室、ポップアップカード教室、発達障害の学習会、児童虐待の理解と支援、親業



講座、月一回広報誌発行など様々な事業を行っています。

「だんぼの部屋」の名前の由来は、「あなたのお話、耳を大きくしてゆつくりと聞きますよ」という意

味です。スタッフは全員難しい資格や、立派な肩書はなく、みんな子育て中の母、父です。でも全員家庭教育サポーター養成講座を受け、サポーターとしての約束事はしっかり守っています。

す。当初は、六日町小学校だけでしたが、今は浦佐小、北辰小、塩沢小と「だんぼの部屋」が四つになりました。学校側の理解と協力で心より感謝しています。また予算がないので、講師料はスタッフの手作り小物、ケーキ、感謝状などですが、講師の方たちは気持ちよく引き受けて下さり、これにも深く感謝です。

無縁社会が叫ばれ久しいですが、無縁社会は自然発生したものではありません。私たちが作ってきた社会です。困った時、淋しい時、誰かに話を聞いてもらうと楽になることがあります。

「だんぼの部屋」に集まって、お喋りしていると隠れた才能や特技を発揮することがあります。そんな皆さんが手弁当で活動に協力して下さることもたくさんあります。助けてもらったり、助けたり、そんな当たり前のことができる場所にしたいと思っています。

一度、お喋りに来ませんか？



「だんぼの部屋」のシンマーク

編集後記

障がい者の「相談支援専門員」についての話を聞く機会があった。介護保険のケアマネージャーにあたる仕事で、障がい支援サービスマネージャーの、一貫性ある支援計画を二〇一四年度までに作る計画である。

これまでは、本人や家族が関係機関に相談して決めたり、支援会議を持って支給量に沿った計画を決めたりとまちまちだったため、サービスマネージャーができた、トラブルの元になったりした。

相談支援専門員は、各協力事業所の個別計画を調整して一貫性を持たせ、あくまで利用者主体で作成する。

いい方向だなと思うが、支援専門員の資質はもとより、支援会議の中にあつて家族の声小さくならないか、心配だ。「お世話になる立場」はこの際置いておいて、利用者本人の一番身近な支援者として、計画の細部や、全体の方向に目を向けるようにしたい。

(井口美賀)



【平成23年度財務状況報告】

社会福祉法人桐鈴会

資金収支計算書

(単位：千円)

(平成24年3月31日現在)

勘定科目		決算額
経常活動による収支	収入	
	介護保険収入	106,444
	自立支援費等収入	5,648
	利用料収入	1,623
	事業収入	2,615
	経常経費補助金収入	26,417
	寄附金収入	3,000
	雑収入	3,656
	受取利息配当金収入	12
	会計単位間繰入金収入	4,000
	経理区分間繰入金収入	7,500
	経常収入計(1)	160,915
	支出	
人件費支出	86,704	
事務費支出	19,801	
事業費支出	24,736	
借入金利息支出	437	
会計単位間繰入金支出	4,000	
経理区分間繰入金支出	7,500	
経常支出計(2)	143,178	
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	17,737	
施設整備収支	収入	
	施設設備等寄付金収入	7,046
	固定資産売却収入	0
	施設設備等収入計(4)	7,046
支出		
固定資産取得支出	31,556	
施設整備等支出計(5)	31,556	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-24,510	
財務活動収支	収入	
	積立預金取崩収入	9,500
	財務収入計(7)	9,500
	借入金元金償還金支出	9,672
支出		
財務支出計(8)	9,672	
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-172	
予備費(10)		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-6,945	
前期末支払資金残高(12)	75,169	
当期末支払資金残高(11)+(12)	68,224	

事業活動収支計算書

(単位：千円)

(平成24年3月31日現在)

勘定科目		決算額
事業活動収支の部	収入	
	介護保険収入	106,444
	自立支援費等収入	5,648
	利用料収入	1,623
	事業収入	2,615
	経常経費補助金収入	26,417
	寄附金収入	3,000
	雑収入	3,656
	国庫補助金等特別積立金取崩額	10,599
	事業活動収入計(1)	160,002
	支出	
	人件費支出	86,704
	事務費支出	19,801
事業費支出	24,736	
減価償却費	21,022	
事業活動支出計(2)	152,263	
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	7,739	
事業活動外収支の部	収入	
	受取利息配当金収入	13
	会計単位間繰入金収入	4,000
	経理区分間繰入金収入	7,500
	事業活動外収入計(4)	11,513
	支出	
	借入金利息支出	437
	会計単位間繰入金支出	4,000
	経理区分間繰入金支出	7,500
	事業活動外支出計(5)	11,937
	事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	-424
	経常収支差額(7)=(3)-(6)	7,315
	特別収支の部	収入
施設設備等寄付金収入		7,046
固定資産売却益		0
特別収入計(8)		7,046
支出		
基本金組入額		13,300
固定資産売却損・処分損		0
国庫補助金等特別積立金積立額		4,395
特別支出計(9)		17,695
特別収支差額(10)=(8)-(9)		-10,649
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)		-3,334
繰越活動収支差額の部		
前期繰越活動収支差額(12)		106,912
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	103,578	
基本金取崩額(14)	0	
基本金組入額(15)	0	
その他積立金取崩額(16)	9,500	
その他積立金積立額(17)	0	
次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	113,078	

二十三年度決算書類の詳細はケアハウス鈴懸・事務所に常備してあります



貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

(単位：円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	78,608,575	83,199,178	-4,590,603	流動負債	10,384,914	8,030,113	2,354,801
現金預金	58,786,899	61,878,145	-3,091,246	未払金	4,074,568	1,979,113	2,095,455
未収金	19,797,346	21,294,263	-1,496,917	預り金	6,310,346	6,051,000	259,346
貯蔵品	24,330	26,770	-2,440	固定負債	46,696,000	56,368,000	-9,672,000
固定資産	377,508,750	376,473,602	1,035,148	設備資金借入金	28,696,000	33,368,000	-4,672,000
基本財産	324,844,718	336,759,145	-11,914,427	長期運営資金借入金	18,000,000	23,000,000	-5,000,000
建物	203,757,091	207,186,584	-3,429,493	負債の部合計	57,080,914	64,398,113	-7,317,199
建物附属設備	45,077,627	53,562,561	-8,484,934	純資産の部			
土地	76,010,000	76,010,000	0	基本金	136,619,500	123,319,500	13,300,000
その他固定資産	52,664,032	39,714,457	12,949,575	基本金	136,619,500	123,319,500	13,300,000
建物	5,139,572	0	5,139,572	国庫補助金等特別積立金	138,339,087	144,543,381	-6,204,294
建物附属設備	734,657	501,550	233,107	その他の積立金	11,000,000	20,500,000	-9,500,000
構築物	4,640,716	5,827,066	-1,186,350	人件費積立金	2,000,000	2,000,000	0
車両運搬具	1,661,961	2,537,823	-875,862	修繕積立金	9,000,000	18,500,000	-9,500,000
器具及び備品	6,605,486	3,209,878	3,395,608	次期繰越活動収支差額	113,077,824	106,911,786	6,166,038
土地	22,765,000	0	22,765,000	次期繰越活動収支差額	113,077,824	106,911,786	6,166,038
建設仮勘定	0	7,021,500	-7,021,500	(うち当期活動収支差額)	-3,333,962	19,586,832	-22,920,794
権利	93,500	93,500	0	純資産の部合計	399,036,411	395,274,667	3,761,744
人件費積立預金	2,000,000	2,000,000	0	負債及び純資産の部合計	456,117,325	459,672,780	-3,555,455
修繕積立預金	9,000,000	18,500,000	-9,500,000				
その他の固定資産	23,140	23,140	0				
資産の部合計	456,117,325	459,672,780	-3,555,455				

(脚注) 1. 減価償却累計額

基本財産 202,896,942 円

その他固定資産 37,676,392 円

ケアハウス鈴懸・桐の花・ひまわり

桐鈴会 夏祭り

とき 8月3日(金)

じかん 18:00~20:30

ぼしょ ケアハウス鈴懸駐車場

(雨天中止)

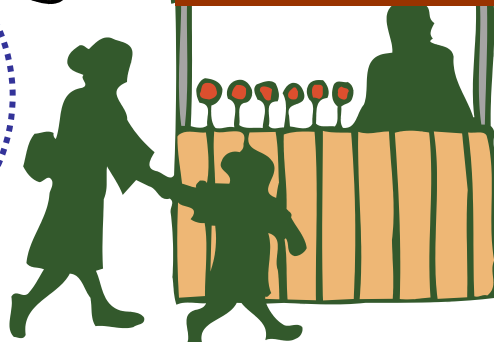
出し物 踊り、和太鼓、カラオケなど

〈屋台店〉

たこやき、やきそば、そば、
からあげ、クレープ、
ビール、かき氷、クッキー、
ソフトドリンク
ヨーヨー&スーパーボール
すくい、ボーリング



*屋台は
チケット制です
100円券
50円券



H24
ソフトドリンク
無料券
(1枚につき1杯)